

中国語における外来語の差異とその受容

古川 典代

神戸松蔭女子学院大学文学部

Author's E-mail Address: furukawa@shoin.ac.jp

Acceptance of Differences of Loan Words in Chinese

FURUKAWA Michiyo

Faculty of Letters, Kobe Shoin Women's University

Abstract

日本における中国語教育は、正式に国交のある中華人民共和国に照準を当て、いわゆる簡体字とピンインでの学習を主としている。しかしながら、「中国語通訳演習」のような上位科目になると、大陸の中国語だけでなく台湾の中国語にも言及する必要があるが出てくる。実際のビジネス現場のニーズがあるためである。その際に、気を付けなくてはならないのが大陸と台湾における語彙や表現の相違である。本稿では、とりわけ外来語のような新しい概念を取り入れる際、両者は異なる受容体系を持つことに注目し、その変遷を踏まえて分析を行うものである。

Chinese education in Japan usually aims at the People's Republic of China because so-called 'Simplified Chinese' and 'Pinyin' are mainly needed for diplomatic relations. However, for higher level study such as Chinese interpretation, not only mainland Chinese but also Taiwan Chinese is needed for business. In this case knowing differences of vocabulary and expressions between mainland and Taiwan Chinese is necessary. In this paper it is noted that when introducing new concepts, such as a loan words, there is a different receptor system. In the light of this difference, loan words need to be analyzed differently for mainland and Taiwan Chinese.

キーワード：意識志向、音訳志向、原語志向、中台語彙差

Key Words: meaning translation, sound translation, original word meanings, differences of vocabulary between mainland China and Taiwan

1. はじめに

大陸と台湾では語彙や表現が異なる——通訳現場にいと当たり前習得しているこの事実を、一般社会では気づかないままであることが多い。その証拠に、公共施設や商業施設に用意されている中国人向けの紹介パンフレットには、「簡体字」と「繁体字」の二種類が用意されているが、文字フォントのみの変更で文章内容の表現はまったく同様であることがほとんどである。近年では大学や専門学校のような高等教育機関においても、海外からの留学生を見込んでHPに英語のほかに中国語や韓国語などでの紹介文を用意していることが多くなった。本学においても、公式HPで中国語を用意しており、「簡体字」と「繁体字」を選択してクリックできるようになっているが、文字だけの書き換えで内容は同様の表現を採用している。調べたかぎりでは、関西圏における他校においてもほとんど同様であった。しかしながら、両フォントを用意しているだけでも以前に比べれば数段の進歩であるともいえる。

1972年の日中国交回復以来、日本国内での中国語教育は正式に国交を持っている中華人民共和国、すなわち大陸の中国語をターゲットとしており、簡体字とピンインで学習を進めるようになっている。当然表現も大陸式である。中国語学習用に年々数十種類のテキストが刊行されているが、そのいずれもが簡体字+ピンイン表記を採用している¹⁾。

グローバル化を進める日本において、大陸からの中国人と台湾・香港からの中国人では同じ中国語を使っているとはいえ、文字も表現も異なることを学校教育の課程において網羅するのは難しい。しかし、一步社会に出てビジネスに携わるようになれば、たちまちこの問題に遭遇する。まして、実学志向に転換しつつある大学教育において、「中国語通訳翻訳演習」や「ビジネス中国語」などの科目を担当する機会が増加するに従い、この問題を軽視できない状況に陥りつつある。本稿では、それらの問題をあぶりだすとともに、中国語教育の中でどのように導いていくべきかを試論する。

2. 先行研究

中国語における外来語の受容の歴史については、高名凱・劉正琰 1958『現代漢語外来詞研究』(文字改革出版社)が不動の位置を占めており、刊行から30年後に鳥井克之 1988『現代中国語における外来語研究』(関西大学出版部)として邦訳本が出るほど、認められている。1984年には同両名著による『漢語外来語詞典』(上海辞書出版社)が、また2000年には史有為『漢語外来詞』(商務印書館)が刊行され、中国国内における外来語研究は成熟をみたとされている。また、日本においては沈国威 1994『近代日中語彙交流史』(笠間書院)、内田慶市 2001『近代における東西言語文化接触の研究』(関西大学出版部)などの大作があり、言葉による外来の文化が言語上にどのように反映されてきたかが解明されている。しかしながら、今現在通訳の現場で直面する中国大陸と台湾における語彙や表現の受容や変遷を、中立な立場で研究した著書や論文はまだ稀有といえる。それというのも、大陸の研究者は大陸の状況を研究対象とし、台湾は台湾における状況を研究してそれぞれを刊行するからである。双方から程よい距離を持つ日本だからこそ、その相違に気がつき、「中国語」と一括りにできない矛盾に遭

遇するわけである。また、外来語は新しい概念に伴って受容され、使用される過程で淘汰されたり変容したりしたのちに定着する。そのため、変化の途中では論じることが難しく、畢竟何十年も後になってやっと論じることが可能になる。先行研究の対象語彙が歴史的な様相を示しているのはそのためである。

大陸と台湾の比較的新しい語彙や表現の差異に言及した研究として調べた限りでは、荒川 2012、鈴木 2014 が挙げられるが、中台間の交流が乏しかった時代である 2000 年以前の研究をベースとし、いずれもすでに変遷を経た後の語彙などをとりあげている。また、大陸と台湾それぞれで刊行された外来語辞典をベースとした分析であるため、新しい語彙への言及が少なく、大陸・台湾それぞれ個別の状況の把握となっており、比較対照およびそのようなことになる原因などの究明がなされていない。

本稿では、日本という中立な立場を活用し、いくつかの事例を分析しながら大陸と台湾の語彙や表現の差異を客観的に比較対照し、その相違の発生原因を究明してみたい。

3. 「外来語」の定義

日本における「外来語」は、古くは「翻訳語」とも言われたが、厳密にはこれらの言葉には区別がある。

石綿 2001 では外来語と翻訳語の違いを次のように定義している。

「外国語の音形をそのまま日本語の中に置きかえたものを外来語といい、意味的に日本語に翻訳したものを翻訳語という。英語の electronic computer あるいは computer を「電子計算機」と訳したものが翻訳語であり、英語の音形をそのまま日本語の音形に置きかえたコンピュータが外来語である。」

この言を借りれば、中国語においては「翻訳語」＝「外来語」の図式が成立することになる。現在日本では「外来語」という言い方が定着し、外来の事象を日本語に取り入れる際に一般的にはカタカナで記載された「外来語」を使用する。

中国においても、歴史的には「訳詞（翻訳語）」、「借詞（借用語）」、「外来詞（外来語）」のように言われてきたが、日本語からの影響を受けて「外来詞」の言葉が定着した。本稿における「外来語」とは、中国語における「外来詞」を日本語で「外来語」と称し、外来の事象を受容してコミュニケーションの媒介とするために自国の言葉に取り入れた広義の「外来語」を指す。

4. 中国語における「外来語」の作られ方

先行研究では、中国語における外来語の受容方式を「音訳」、「意訳」、「混合」のように分類されてきたが、本稿では次の 5 種類に分類し、これを「～志向」とネーミングすることを提唱したい。

- | | |
|---------|----------------------------|
| A. 原語志向 | internet WTO CD 刺身（生魚片） 純生 |
| B. 意識志向 | 互聯网络 电脑 微波炉 热狗 |

- C. 音訳志向 因特网 卡拉OK 酷 粉丝
 D. 意識+音訳志向 星巴克咖啡 新西兰 超级模特儿
 E. 兼訳志向 可口可乐 博客 黑客

A. 原語志向

オリジナルの語彙のまま自国に取り入れる外来語の受容方法で、アルファベット文字に多い。また、日本語でも漢語表現のものはそのまま受け入れやすい。

例に挙げた“刺身”は、中国語の文法的にはVO構造のため「身を刺す」と物騒な語彙になってしまう。そのため導入当初は“生魚片(生魚のスライス)”という意味の外来語が使われてきた。その後、訪日する中国人が増えるに従い日本の刺身が認知されるようになったため、今では中国でも“刺身”を使用するようになった。“生魚片”では、生臭いイメージが先行するので、語感が良くないこともあり、いっそ刺激的な“刺身”が流行ったといえる。オリジナルの言葉への理解度や好感度、知名度が、オリジナル言語のまま受容されるかどうかの鍵となる。情報流入が容易になった現在、原語志向の外来語が増加していくものと思われる。

B. 意識志向

表意文字である漢字を使用するため、漢字の意味で訳語を形成し、外来語になったもの。インターネットは“互联网(互いに連絡しあうネットワーク)”,パソコンは“电脑(電気の頭脳)”のように。また、英語を介在するとわかりやすいものも多くある、たとえば「電子レンジ」は英語で“microwave oven”,中国語では“微波炉(マイクロウェーブ オープン)”となる。“hot dog”は文字通り“热狗(熱い犬)”,犬肉の食べ物だと思って食べられなかった人もいるという。「翻訳語」=「外来語」になる例の多くは、こういった受容のしかたをされている。

C. 音訳志向

中国語の発音を利用して、オリジナル言語の発音に近くなるように構成されたもの。“酷kù”は英語の“cool”の意味で、日本語のように残酷なニュアンスは伴わない。“粉丝fēnsī”はもともとは中国語で「春雨」の意味だが、音から英語の“fan(atic)”の意味で使われる。音訳志向の外来語には「ピザハット」「必胜客 Bìshèngkè」、「タクシー」「的士 dīshì」のように、標準語読みでは発音がオリジナルとは異なって聞こえるものも多い。しかしこれらは、広東語で発音するとそっくりになる。香港や広州、などの南方で流行った言い方が北上して普及した外来語の例である。

D. 意識+音訳志向

外来語の構成が、音訳と意識をミックスされてできたもの。“星巴克咖啡 Xīn bākè kāfēi”は「スター」が“星”で、あとは音訳、“新西兰 Xīnxīlán”は「ニュー」が“新”で、あとは音訳、“超级模特儿 chāojí móter”は「スーパー」が“超级”で、あとは音訳といった構成をとっている。前述のとおり漢字は表意文字であるため、つい視覚的に理解をしてしまいがちになる。そのため、音訳のみの場合は、その指し示すものの把握がワンテンポ遅れをとってしまう。その点で音訳と意識をミックスすることは、違和感を薄め、受容しやすくなるステップと言える。

E. 兼訳志向

音訳でありながら意識にもなっている外来語というのが、最も理想的な外来語の受容方式と言える。“可口可乐 kěkǒukělè”は、発音は「コカコーラ」と聞こえるし、意味も「美味しくくて楽しい」となり、外来語のお手本のように言われている。“博客 bókè”も「ブログ」と聞こえ、「広く客が来る」という意味。“黑客 hēikè”は「ハッカー」に近い発音の上、中国語で“黒”は「犯罪」や「悪」を示すので「あくどい客」の意味でも分かりやすい外来語となっている。

中国で知名度を上げたい企業名や商品名なども、音と意味が一致するように苦心しているが、それが上手くいかない場合には、いっそアルファベットで導入してしまおうという原語志向に至っている。とりわけ本国でアルファベットを使っている企業、例えば「YAMAHA」は、中国に進出した当初は“雅马哈 Yāmǎhā”と音訳していたのを、“現在では YAMAHA”とロゴを戻して、そのまま使用するようにしている。企業名や商品名では今後は原語志向が強まると予測できる。

5. 「中国語」を表わす言葉

そもそも日本語で「中国語」と称するものを、大陸では「漢語」と言い、台湾では「国語」と表現している。香港、シンガポールなど中国語圏ではこれらを「華語」として総称する。

「漢語」とは漢民族の話す言葉であり、漢民族の書く文字を「漢字」という。中華人民共和国は多民族国家であり、56民族が生存しているなかで漢民族が92%を占めている。そのため漢民族の言葉と文字を標準化している。大陸では「普通話」という言い方があり、「あまねく通じる言葉」といったニュアンスを持つ。

「国語」は、中華民国が政策として自国語を「国語」と称して推進してきた流れのままに台湾でも使われ続けた言い方である。日本語の中で国民向けの自国語教育科目を「国語」と称するのに通じる言い方である。

「華語」は、シンガポールなど東南アジアで公用語としての「中国語」を言う際に使われていたが、中華人民共和国にも中華民国にも通じることから、中華圏における「中国語」の総称として大陸及び台湾においても受容された言葉である。大陸、台湾、香港、シンガポールなど中国語圏を網羅している学会などでは「華語研究」、「華語教学」のように使っている。

ここから中・台の語彙の違いには歴史的背景はもちろん、政治的背景も垣間見えてくる。

6. 中台の語彙の相違

鈴木 2014 では大陸・台湾間における中国語に違いが生じた原因として、1949年以前は原住民や本省人が使う言語や、1895年～1945年の50年にわたって台湾を実効支配していた日本の国語—日本語が台湾の中国語に影響を与えていると指摘し、その後の中台間の断絶を経て2008年に国民党の馬英九氏が台湾総統に就任後、転換が訪れたという。

下記の一覧は2000年に通訳演習の授業で配布した資料であるが、15年が経過するうちに矢印で示されたように、3つの語彙が変容している。

大陸と台湾の語彙の違い (パソコン関係)

日本語	大陸	台湾
アナログ	模拟 mómǐ	類比 lèibǐ
インターフェイス	接口 jiēkǒu	界面 jièmiàn
カーソル	光标 guāngbiāo	遊標 yóubiāo
集積回路/ IC	集成电路 jíchéngdiànlù	集體電路 jītǐdiànlù
情報	信息 xìnxī	咨詢 zīxún
初期化	初始化 chūshǐhuà	初設 chūshè ⇒ 格式化 géshìhuà
シリコン	硅 guī	矽 xī
ソフトウェア	軟件 ruǎnjiàn	軟體 ruǎntǐ
データ	数据 shùjù	資料 zīliào
デジタル	数字 shùzì ⇒ 数码 shùmǎ	數位 shùwèi
ネットワーク	网络 wǎngluò	網絡 wǎngluò
ハードウェア	硬件 yìngjiàn	硬體 yìngtǐ
パスワード	口令 kǒulìng ⇒ 密碼 mìǎ	密碼 mìǎ
ハッカー	黑客 hēikè	駭客 hàikè
開く	打开 dǎkāi	開放 kāifàng
ファイル	文件 wénjiàn	檔案 dǎng'àn
フォルダー	文件夹 wénjiànjiā	資料夾 zīliàojiā
プログラム	程序 chéngxù	程式 chéngshì
マウス	鼠标 shǔbiāo	滑鼠 huáshǔ
レーザー	激光 jīguāng	雷射 léishè

中国においては1990年代からパソコンが個人ベースで活用されるようになり、パソコン用語がユーザーに浸透するようになった。当時、大陸と台湾が「三通（通信、運輸、通商の直接往来を行わない）」政策によりお互いの交流が頻繁ではなかったため、それぞれに新語が形成され、お互いに交わることなく使用されて用語が定着した。1992年に中台が「一つの中国」としての確認があったものの、初の首脳会談が実現したのは記憶に新しい2015年11月7日のことである。親中派の馬英九氏の公約により、2008年12月からは空路、海路ともに中台直行便が運航され、かつての「三通」が「三通」となった。中台間の交流や対話については本稿では詳細には言及しないが、政治的背景の兩岸分断により言語的交流も頻繁でないことが外来語の中台統一になかなか結び付かない一因であることは否めない。

しかしながら、パソコン用語の例でも「パスワード」はすでに統一をみている。「パスワード」はパソコン以外にも銀行のキャッシュカードや携帯電話など使用場面が多く、言葉の普及が他より早いことは想像しやすい。経済面では中台の交流が盛んになった昨今、必要場面の多い、すなわち登場回数が多い外来語は今後統一化に進むことが予想される。

7. 『ドラえもん』の変遷

30余年通訳業務に携わっているなかで、中台の語彙差については様々な遭遇があった。初めて身につまされたのは1998年10月に大阪で「台湾映画祭」が行われた時である。台湾の女優さんが『ドラえもん』の手帳を持っていたので、“阿、您喜欢《机器猫》呀？（あら、貴女は『ドラえもん』が好きなんですか？）”と声をかけたときのこと、まったく反応がなく、却って気まずい雰囲気になってしまったので深く印象に残っている。当時『ドラえもん』は大陸では《机器猫》と言われて大人気だったが、台湾では《小叮噠》と言われていた。慌てて言い直しても後の祭りで、気難しい女優さんのご機嫌を損ねたままであったことが今でも悔やまれるエピソードだ。大陸の言い方は「猫型ロボット」を翻訳したものであり、台湾の言い方は『ドラえもん』の「ドラ」に着目し、ドラの音を表わす“叮噠（ディンドン）”に愛称の「小」を付けたものである。興味深いのは、原作者の藤子・F・不二雄氏が「アジア各国でドラえもんが人気なのはありがたいが、名称が各種各様で不統一である。ぜひとも日本語の音を基準に統一して、聞けばだれでもすぐわかるようにしてほしい」と遺言していたことである。これを受けて21世紀初頭には、大陸でも台湾でも「ドラえもん」を音訳した“哆啦A梦 Duō lā A mèng（哆啦A夢）”で統一された。

8. 通訳現場で遭遇した中台の語彙差

2000年以降、地球温暖化対策や大気汚染などの環境問題に関する会議が増加した。その中で2003年9月に行われた「日台環境技術交流会議」においては、台湾で使用しているいくつかの語彙が大陸とは異なることに気が付き、急遽自分の中で語彙修正を行うはめになった。まずは「ゴミ」から。大陸では“垃圾 lājī”と発音するこの語彙、台湾では同じ文字でありながら“lèsi”と発音する。どのゲストが話しても同様の発音であるので、台湾ではこの読み方が定着していることがわかった。さらに、「環境ホルモン」は大陸では“环境激素 huánjīng jīwù”、台湾では“環境荷爾蒙 huánjīng hé'ěrméng”、「ダイオキシン」を大陸では“二恶英 èrèyīng”、台湾は“戴奥辛 dài'àoxīn”という。この例を見る限りでは、大陸は意識志向で、台湾は音訳志向のようにも思える。また、「ゴミ」の発音差は方言（＝閩南語）の影響でもあるため、鈴木2014の指摘も納得できる。

さらには、2015年10月下旬にトヨタ自動車の「グローバルQC²⁾ サークルコンベンション」での通訳業務においても、キーワードの「QC サークル」を大陸の企業では“QC 小组”と言い、台湾企業では“QC 圈”と言っていたことにも驚かされた。「サークル」の解釈的には同様の意味合いなのだが、トヨタ傘下の同族企業内でも妥協を許さない外来語の受容差異に、中台の独立独行の意思の強さを垣間見た気がした。

9. 教育現場での中台の語彙差

筆者が学外出講しているD大学³⁾では、2年生後期から3年生前期にかけての1年間、北京大学、上海復旦大学または台湾師範大学のいずれかに留学することになっている。帰国し

たばかりの学生の中国語力をブラッシュアップするために設けられた「中国語通訳の理論と実践」という科目を担当する中で、より最新の中台語彙差を実感することがあった。それは化粧品名である。クイックレスポンスの素材として化粧品名を出したところ、「ヒアルロン酸」を大陸では“透明質酸 tòumíngzhìsuān”と言い、台湾では“玻尿酸 bō'niàosuān”と言っている。調べてみると他にも“透様酸”、“玻糖醛酸”、“糖醛酸”、“玻璃酸”、“玻璃酸酶”、“透明质酸盐”などの言い方もあり通訳者泣かせ、いえ学習者泣かせである。

この事例からは、これまではビジネスの場で遭遇していた中台語彙差を、中国語学習の教室でも意識せざるを得なくなったと言える。

10. 中台の表現のしかたにみる相違

ここまで中台における語彙の違いについて言及してきたが、ここからは表現の違いについて述べておきたい。

2001年11月に台湾科学先端技術団の訪日に伴って通訳をしていた際に、“在此、对各位的来临表示热烈的欢迎！（ここで、皆様方のご来訪に熱烈歓迎を申し上げます）”と通訳したところ、“你是北京人！（アンタ北京の人でしょう！）”と失笑された。台湾では通常は“非常欢迎各位的来临。（皆様のご来訪をととも歓迎いたします）”と表現すること。よく耳にする“熱烈歓迎”は大陸式であるとのことだった。確かに大陸式の挨拶は持って回ったというか、やや大きな表現をすることがままある。

記憶に新しいところでは、2015年11月7日にシンガポールで行われた台湾馬英九氏と中国習近平氏のいわゆる「馬習会談」の際のスピーチで、馬氏は“習先生、…”と呼びかけたのに対し、習氏は“尊敬的馬英九先生、…”と呼びかけている。これを、習氏のほうが馬氏を尊重していると誤解する向きがあったが、実はスピーチの慣用表現であったにすぎない。このように、中台間の表現の違いにも留意しないと、外交に至ってはとんでもない行き違いになりかねない。

11. 『アナと雪の女王』主題歌について大陸版と台湾版の比較

外来語は、主として新しい概念の受容時にネーミングすることがスタート地点である。その後、時間の経過とともに定着までには変容や淘汰などが起こり得る。先の事例で言及した「ヒアルロン酸」は現時点では8種類の語彙が検出されたが、いずれかの時期には統一される、または2-3語に集約されるはずである。「ドラえもん」や「パスワード」のように、大陸と台湾でそれぞれに外来語として受容され、やがて統一されていくものが今後は増えるであろうことが予測できる。もしくは当初から大陸と台湾で同一の外来語として受容されていくのではないかと筆者は考える。そこで、新しい概念の受容について精査してみようと思う。

素材は、2014年に日本でも大ブレイクしたディズニーアニメ『アナと雪の女王』。まずはテーマソング『Let It Go』の大陸中国語版と台湾中国語版を比較検討してみる。

	A. 英語	B. 日本語	C. 大陸 (簡体字)	D. 台湾 (繁体字)
1	Let It Go	ありのままに	随它吧	放開手
2	The snow glows white on the mountain tonight, not a footprint to be seen. (山では今夜 雪が白く輝き 足跡もみえない)	降り始めた雪は足跡消して	白雪发亮今夜铺满山上 没有脚印的地方 (山では今夜 白い雪が輝き 足跡もみえない)	白雪粉飛一片銀色世界 放眼望去是沉寂 (白い雪が降りしきる一面の銀世界 目を向けるとそこはひっそりとさびしそう)
3	A kingdom of isolation, and it looks like I'm the Queen. (孤立した王国、そして私は女王様のようなね)	真っ白な世界に一人の私	孤立的王国很荒凉 我是这里的女皇 (孤独な王国は荒れ果て 私はそこの女王)	遙遠國度放逐自我 孤單寂寞每一天 (遙か遠い国に私自身を追いやった 孤独で寂しい日々)
4	The wind is howling like this swirling storm inside. (風はうなる この心の中の嵐のように)	風が心にささやくの	风在呼啸像心里的风暴一样 (風はうなる 心の中の嵐のように)	思緒像狂風呼嘯 巨浪般澎湃 (想いは荒れ狂う風が唸るよう 巨大な波のように澎湃 ⁴⁾ する)
5	Couldn't keep it in; heaven knows I tried. (もう十分 我慢する努力をしてきたことを 神様はご存じよ)	このままじゃだめなんだと	只有天知道 我受过的伤 (神様だけが あなたの受けた傷を知っている)	無法再壓抑 最後の忍耐 (もう抑えられない最後のがまん)
6	Don't let them in, don't let them see. (誰も入れないで 誰にも見せないで)	戸惑い 傷つき	别让他们 进来看见 (彼らを入れなくて見せないように)	不要靠近 不要相信 (近づかないで 信じないで)
7	Be the good girl you always have to be. (いい子のままでいなくちゃ)	誰にも打ち明けずに	做好女孩 像你的从前 (以前のようによく子にしていなくて)	乖乖聽話 安分一如往昔 (昔から変わらずにおとなしくいうことを聞き)
8	Conceal, don't feel, don't let them know. (隠さなくちゃ 気持ちも押し殺して 知られないように)	悩んでた それももう	躲藏不让 他们看见 (隠れて 彼らに見せない)	隱藏堅強 拒絕表露 (かたくなに隠して表に出さない)

9	Well, now they know. (でももう 彼らは知ってしまった)	やめよう	已被发现 (でももう見つかった)	抛下所有 (そんなすべてを投げ出すわ)
10	Let it go, let it go. (もういいの ありのまままで)	ありのままの	随它吧 随它吧 (あるがままに あるがままに)	放開手 放開手 (手を放して 手を放して)
11	Can't hold it back any more. (これ以上我慢なんてできない)	姿見せるのよ	回头已没办法 (振り返ってももう無駄よ)	不需要任何理由 (いかなる理由もいらない)
	A - 10 に同じ	B - 10 に同じ	C - 10 に同じ	D - 10 に同じ
12	Turn away and slam the door. (背を向けて 思い切りドアを閉めて)	自分になるの	一转身不再牵挂 (背を向けたらもう関係ない)	不理會心中枷鎖 (心を縛る枷をはずすの)
13	I don't care what they're going to say. (彼らが何を言おうと気にしないわ)	何も怖くない	我不管 他们想说的话 (彼らが何を言おうとも構わないわ)	還以為 曾經在乎過誰 (まだだれかを気にするの)
14	Let the storm rage on. (嵐よ 吹き荒れなさい)	風よ吹け	任风吹雨打 (嵐が吹き荒れるに任せるわ)	讓暴雨翻騰 (嵐よかき乱しなさい)
15	The cold never bothered me anyway. (もう 気にしないわ)	少しも寒くないわ	反正冰天雪地我也不怕 (とにかくもう何も怖くないわ)	從不畏懼征服冰霜風雪 (もう氷や吹雪に征服されるのを恐れない)
16	It's funny how some distance, makes everything seem small. (不思議ね 少しの距離が すべてを小さく見せるなんて)	悩んでたことが嘘みたいね	这一点点的距离 让一切变精致 (この少しの距離がすべてを素敵に変える)	你我之間有距離 一切變得渺小 (あなたとの距離がちっぽけになるわ)
17	And the fears that once controlled me, can't get to me at all (私をしばっていた恐怖も、もう私を苦しめることはないわ)	だってもう自由よ 何でもできる	曾經困扰我的恐懼 会远离我回忆 (かつて私を困らせていた恐怖はもう私の記憶から遠ざかっていく)	那縈繞心頭的恐懼 已經不再重要 (まわりつづ恐怖心はもう重要ではないわ)

18	It's time to see what I can do, to test the limits and break through. (私の力を知り 限界を試し 超える時が来た)	どこまでやれるか 自分を試したいの	现在开始让我看见 是我的突破和极限 (これから私の突破と 限界を見始める)	看看我要如何去做 测试极限能否突破 (私が何をしに行くか 見ている 限界を超え られるかどうか試しに 行くの)
19	No right, no wrong, no rules for me. (正しいことも 間違っ たこともなく ルールも ないわ)	そうよ 変わるのよ	不分对错 没有极限 (正しいことも、間違っ たこともなく、限界は ないの)	没有对错 没有束缚 (正も非もなく 束縛 もない)
20	I am free! (私は自由よ)	私	向前 (前に向かって)	起飛 (飛び立つの)
21	A - 10 に同じ	ありのままで	C - 10 に同じ	D - 10 に同じ
22	I am one with the wind and sky. (私は風と空とともに)	空へ風に乗って	跟风和天空对话 (風と空と対話するの)	從今往後由我主宰 (これからは私が主よ)
23	A - 10 に同じ	B - 21 に同じ	C - 10 に同じ	讓它走 讓它走 (行かせて 行かせて)
24	You'll never see me cry. (もう私は泣かないわ)	飛び出してみるよ	眼泪不再留下 (もう涙は流さないわ)	絶不再受傷害 (もう二度と傷つかない)
25	Here I stand, and here I'll stay. (私はここに立っている 私 はここにいたい)	二度と涙は	这个家让我留下 (ここが私の居場所)	新世界 在我眼前 (新しい世界が 私の 目の前にあるの)
26	A - 14 に同じ	流さないわ	C - 14 に同じ	D - 14 に同じ
27	My power flurries through the air into the ground. (私の力は空を舞いあがり 大地を揺るがす)	冷たく大地を包み込み 高く舞い上がる	我力量从空气中扩散到地上 我灵魂盘旋在冰块各种不同形状 (私の力が空気中から地上に 拡散し 魂は様々な氷の塊となっ て巡回する)	力量強大 從地底直鼠上雲霄 我的心層層冰封 銳利碎片很難消 (力強く 地底から雲が昇華する 私の心は 何層にも凍りつき 鋭利なカケラは なかなか消えない)

28	My soul is spiraling in froze fractals all around (魂は凍りつく凶形と なって渦巻く)	花咲く氷の結晶 のように	我思想結晶变成鋒利的 閃光 (私の思いの結晶が鋭 利な閃光となる)	心念動氷晶立起 天地 將改變 (心が氷の結晶となり 天地を変える)
29	And one thought crystallizes like an icy blast (想いは氷瀑のような 結晶となって)	輝いていた	我永不回头看 (二度と振り返らない)	前方的路等待 (目の前に道が待つて いる)
30	I'm never going back, the past is in the past. (もう戻らない 過去 は過ぎ去ったのよ)	もう決めたの	以往会被埋葬 (過去は埋葬するわ)	過去不要留戀 (過去には未練はない わ)
31	A - 10 に同じ	これでいいの	C - 10 に同じ	D - 23 に同じ
32	And I'll rise like the break of dawn. (私は新たな夜明けを 迎える)	自分を好きに なって	让我在曙光中升华 (光の中を昇華させる)	烏雲後面就是曙光 (暗雲に後光が射すわ)
	A - 10 に同じ	B - 30 に同じ	C - 10 に同じ	D - 23 に同じ
33	That perfect girl is gone (いい子なんてもう消 えたの)	自分を信じて	让完美被蒸发 (完全無欠は蒸発させ る)	只剩記憶迴盪 (ただ思い出がこだま するだけ)
34	Here I stand, in the light of day. (私はここに立ち 日 の光を浴びている)	光浴びながら	这个家在阳光下 (ここでは光の下で)	新世界 希望在眼前 (新しい世界 希望が 目の前にある)
35	A - 14 に同じ	歩き出そう	C - 14 に同じ	D - 14 に同じ
36	The cold never bothered me anyway. (とにかくもう 気に しないわ)	少しも寒くないわ	反正冰天雪地我也不怕 (氷も雪ももう怖くは ないわ)	從不畏懼征服冰霜風雪 (氷や吹雪が征服する のを恐れないわ)

オリジナルテキストの英語に対し、日本語、大陸の中国語、台湾の中国語への受容が比較検討できるよう一覧表にしてみた。それぞれの内容を比較しやすいように、英語、大陸中国語、台湾中国語には日本語拙訳を付けている。主題歌ということで、メロディに合わせるために各フレーズの文字数に一定の制限がある。これはセリフで比較しても字幕文字数に制限が発生するので同様のことが言える。英語の単語数と、日本語のひらがなにしたときの文字数、大陸の中国語、台湾の中国語の文字数がほとんど一致している。このため、日本語は極めてシンプルに省略された表現を採用せざるを得ず、俳句や短歌に通じる表現法—すなわちすべてを解説しきらずに余韻を残すスタイルにせざるを得ない。しかしながら、表意文字である

漢字を使ってカバーする中国語では、かなり原意に近い表現を採用することが可能になる。

網掛けの部分の表現は、オリジナルの英語の意味からは乖離しているもので、翻訳的観点から見れば「超訳」ともいえるものである。比較してわかる通り台湾での解釈のほうが「超訳」率が高い。曲のタイトルにもなっているキーフレーズ“Let it go”の中国語訳が大陸ではC-10“随它吧”ですべて統一されているが、台湾ではD-10“放開手”とD-23“讓它走”の2バージョンを展開している。また、大陸と同様の解釈であってもD-4“巨浪般澎湃”、D-12“不理會心中枷鎖”、D-17“娜縈繞心頭的恐懼”、D-32“烏雲後面就是曙光”のように台湾のほうが文学性の高い古典的な表現を多く用いていることが見受けられる。翻訳者のスキル差や解釈の違いもあり得るので、この例からだけでは即断できないが、この分析からは台湾のほうが新しい概念の咀嚼が早いといえる。大雑把な言い方になるが、英語でいうところの American English と Queen's English のような相違が見受けられる。もちろん大陸が前者、台湾が後者である。

本稿では主題歌の中国語への受容時の表現の相違を比べてみたが、映画本編の字幕や吹き替えの表現も同様に微妙に異なっている。しかしながら興味深いことに、タイトルや登場人物の中国語訳は統一されている。

英語	日本語	大陸（簡体字）	台湾（繁体字）
FROZEN	アナと雪の女王	冰雪奇緣	冰雪奇緣
Anna	アナ	安娜	安娜
Elsa	エルサ	艾莎	艾莎
Kristoff	クリストフ	阿克	阿克
Sven	スヴェン	小斯	小斯
Olaf	オラフ	雪宝	雪寶
Hans	ハンス	汉斯	漢斯

これは、ディズニーから中国語版への著作権委譲の際に統一されたもので、いわば「中国語」という一括りの中でのラベリングをしているともいえる。しかしながら、中身はそれぞれ独自の味付けを施してあるわけで、この先いずれかの時期にそれが限りなく近いフレーバーに変化していくものと予測される。

12. まとめ

「中国語」でありながら、大陸と台湾では語彙や表現は異なることが多い。とりわけ外来の新概念を受容する際には、それぞれ独自の思惟方法で「外来語」を設定する。このことを肝に銘じたうえで、日本での中国語教育ではこの現象についてどのように対応すべきかが今後の大きな課題であると思う。

グローバル化が進む中で、大陸からの留学生と台湾からの留学生のどちらも受け入れている学校が増加している。「日中通訳演習」のような、日本語と中国語の両言語にまたがる授業を展開する際にも、その中国語は大陸式中国語と台湾式中国語が有り得ることを覚悟し、ど

ちらか一方を抹殺することなく両方を受け入れる寛容さが必要になる。

筆者が出講している K 大学⁵⁾の「中国語通訳翻訳演習」にも、日本人、大陸からの留学生、台湾からの留学生、香港からの留学生が混合しているクラスがあり、語彙や表現の違いで授業の流れが中断することがよくあった。しかしながら、日本人学生にとっては視野を広げられるとともに、「中国語」の奥深さを感じることができるいいチャンスであったともいえる。

近年話題になっている中国人の日本における「爆買い」現象で、中国語の需要が急増している。商店街やレストランなどで中国語表記や中国語メニューも良く目にするようになった。ただ、中国人と一言で言っても、大陸からの中国人、台湾人、香港人がいるわけで、表記も簡体字と繁体字を併用するサービスはまだまだ普及しきれていない。真のグローバル化とは、そういったところでまで理解と配慮を見せてこそ誇れるものではなからうか。

また、日本における中国語教育においては、現時点では一方を見ないふりをしているけれども、きちんと双方を正視して受け入れるのが真のグローバル化を目指す道ではないかと考える。

13. 今後の課題

外来語は受容されたのちに、普及過程で変容したり淘汰されたりする。まさに言葉は生き物であると実感する点がここにある。中台間の語彙差や表現差も兩岸の政治的背景に左右されて、今後も動きがあることは間違いない。中国語で仕事をする立場からすれば、中台間の語彙や表現が統一化されるのが最も効率的であるので、そう願いたいところであるが、こればかりは内政干渉となりかねず、指をくわえて動向を注視していくほかはない。

外来語の研究は、古いところは先人の立派な研究成果があるけれども、続々と生まれてくる新しいところについてのフォローがまだまだ足りないのが実情である。中台の外来語をこれからもタイムリーに追跡し、より究明していくことを今後の課題としたい。

注

- 1) 東京大学教養学部中国語部会編『園地』2002年3月は、東京大学の第二外国語中国語の講読テキストであるが、この第17課『現代中国語は世界を表現できるか?』では繁体字を使用している。同テキストは、大阪大学でも使用されていたことがある。
- 2) QC とは、「品質管理」= quality control のこと
- 3) 同志社大学グローバルコミュニケーション学部、2年次の後期から3年次の前期にかけての一年間の留学を必修単位としている。
- 4) 澎湃は革命家の名前でもあり、革命の波と実際の波とをかけている。
- 5) 関西大学外国語学部の学生は2年次に一年間海外の協定校に留学することが必修となっている。この留学後の学生を対象とした「中国語通訳演習」科目であるが、海外協定校からの留学生も出席するため、多彩なメンバーとなる。

参考文献

- 荒川清秀 (2012) 『中国における外来語需要の歴史的・地域的差異』 陣内正敬、田中牧郎、相澤正夫編 『外来語研究の新展開』 おうふう P112-129
- 千葉謙悟 (2010) 『中国語における東西言語文化交流—近代翻訳語の創造と伝播』 三省堂
- 石原真弓 (2014) 『ディズニーの英語コレクション5 アナと雪の女王』 KADOKAWA
- 石綿敏雄 (2001) 『外来語の総合的研究』 東京堂出版
- 金丸邦三監修 呉侃編著 (2008) 『五訂版 中国語新語辞典』 同学社
- 汪婷 (2009) 『中国における外来語の受容—「外来文化の受容と変容」研究の一環として』 鈴鹿国際大学紀要 No.16
- 沈国威 (2008) 『近代日中語彙交流史—新漢語の生成と受容』 笠間書院
- 菅野敦志 (2009) 『台湾における「本土化」と言語政策—単一言語主義から郷土言語教育へ—』 アジア太平洋討究 No.12 (March2009)
- 鈴木万里子 (2014) 『台湾と大陸の外来語の差異について』 大東文化大学大学院外国語学研究科中国言語文化学専攻 『中国言語文化学研究』 P223-233
- 高野繁男監修 徐萍飛 (2012) 『日本語・中国語における欧米語受容の現状とその比較研究』 大空社
- 田中建彦 (2002) 『外来語とは何か』 鳥影社
- 朱京偉 (2003) 『近代日中新語の創出と交流—人文科学と自然科学の専門語を中心に』 白帝社

(受付日 : 2015. 12. 10)

